

企画名	二畳の茶室 2013
実施日	平成 25 年 11 月 2 日（土）～ 平成 25 年 11 月 3 日（日）
実施場所	中央図書館前
企画代表者の氏名，所属	氏名：鈴木義弥 所属：工学研究科建築学専攻設計学研究室
構成員の氏名	宮本慧，林健太郎，野口翔平，石田正樹，中西美桜，三木僚子，鶴崎翔太，森貞絵美，楠大樹，今村友里子，辻川晃太郎
指導的立場の教員氏名	岡河 貢 准教授
企画の目的及び内容	講義で習得した設計・意匠・環境・構造の総合の場と捉えて、二畳の茶室を学生達で設計・施工して、大学祭の期間中に設置しました。企画の目的としては建築の最小空間である二畳の茶室をすることで、普段生活している空間(オフィス、レストラン、自宅)とは違う小さな空間を体感して頂く事でした。この二畳の茶室は毎年開催させてもらっていますが、今年は天井高さをおさえ、例年より更に小さな空間としました。しかし、床の間など、物理的な工夫をすることで畳にすわった瞬間、落ち着けるような空間としました。
来場者数	40 名
主催・後援団体（外部のコンテスト等に参加する場合は，そのコンテストの規模）	
活動の内容（準備，広報活動，当日の様子等）	<p>二畳の茶室の主な資材としては木材、金具、漆喰でした。柱などの組み立てはもちろん、漆喰塗り未経験の学生達でしたが、丹精を込めて壁の漆喰を仕上げていきました。</p> <p>広報活動としましては、約 2 万部発行されている中国新聞 Cue 東広島版で私達の活動を取り上げて頂きました。</p> <p>当日は茶室の前に野点傘、緋毛氈であしらった椅子などを用意し、茶室の空間を作り出しました。</p>



入場無料

2日・3日 広島大大学祭の注目イベント

ユニーク建築 茶室へどうぞ

2日・3日は広島大で大学祭が行われます。そこで注目なのが、工学部の建築を専攻する学生による「おもしろ茶室」。2008年から続いている企画です。日ごろの創作活動や研究の成果を発表するだけでなく、一般の人にも新しいアイデアを提案し、また体験してもらえようとして茶室を題材にしています。広さは毎年統一して「二畳」。定員2、3人のその小さな空間に、学生のアイディアや工夫がいっぱい詰まっています。昨年は2日間で100人以上が訪れた人気コーナーです。

こだわりのしっくい塗りの壁

今年の茶室は落ち着ける畳の空間を目指して、いて座つたときに広がりを感じさせるため、室内に入ったときはあえて窮屈に感じるよう設計しています。一番のこだわりは、自分たちでしっくいを塗装した壁。ムラになったところに自然光が差し込むようデザインしているので、影がでる質感を目で感じてください。お茶は茶道部の学生が担当するので、本格的なお抹茶を楽しむことができますよ。気軽に来てくついでください。

広島大大学院
工学研究科2年
鈴木 義弥さん

日時 2日、3日 10:00～19:00
場所 広島大中央図書館前広場
☆滞在時間は一組(3人まで)30分

工学部では、学生の手作り家具の展示やワークショップも開催しています!

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

アンケートの結果（来場者にアンケートを実施した場合のみ）

訪れて頂いた方の感想。

- ・床の間に光がさしてとても良い。
- ・漆喰の壁が、暖かみがあって落ち着く。
- ・ゆっくりできる空間
- ・外から見たら窓が少なく、何の変哲もない箱だが、床の間の吹き抜けの光がとても印象的。

成果・課題

訪れて頂いた方の多くに大変喜ばれたり、関心して頂いた茶室でした。

小さなものではありませんが、実際に自分たちで1つの建物を作ることで座学だけでは得られない知識、建築することの意義を学ぶことができました。

課題としては、屋根の防水処理が不十分であったため、大学祭二日目が開催できず、中止となってしまった点です。そのため、今年度は例年よりも来場者数が少ない結果となってしまいました。

今後は防水処理の仕方等を後輩に指導していき、より良い企画となるようにしていきます。

実施風景（写真）

